



川崎区区民会議集会 資料

開催日 平成19年12月15日(土)
 会場 田島支所3階会議室
 主催 川崎区区民会議

プログラム

司会 中村紀子 委員

- ・開会 (13時30分)
- ・主催者あいさつ
川崎区区民会議委員長 魚津利興
- ・区民会議の役割とこれまでの経過 (スライドで説明)
川崎区区民会議副委員長 荒井敬八
- ・パネルディスカッション
テーマ「地域コミュニティの充実」

コーディネーター	金岩勇夫	委員
パネリスト	藍原 晃	委員
	星川孝宜	委員
	田辺富夫	委員
	島田潤二	委員
コメンテーター	荒井敬八	委員
- ・御礼のあいさつ
川崎区区民会議副委員長 弾塚 誠
- ・閉会 (15時予定)



目次

	ページ
川崎区区民会議委員名簿・参与名簿	1
スライド (区民会議の役割とこれまでの経過)	2
地域防災の課題解決に向けた取り組み(案)	7
区民会議における委員の意見(地域防災)	8
シニアの課題解決に向けた取り組み(案)	10
区民会議における委員の意見(シニア)	11

第1期 川崎区区民会議委員名簿

任期 平成18年7月1日から
平成20年6月30日まで

分野順・敬称略

副
委員長

氏名	分野等	推薦団体
ダンツカ マコト 弾塚 誠	防災又は地域交通環境の向上など安全で快適な暮らしを支える分野	川崎区安全・安心まちづくり推進協議会
スヤマ ヨシコ 須山 令子	福祉の推進、健康の増進など幸せな暮らしを支える分野	社会福祉法人 川崎市川崎区社会福祉協議会
ヨシムラ ヤスヒロ 吉邨 泰弘		川崎区医師会 (社団法人 川崎市医師会)
モリ タカスケ 森 教祐		川崎区保護司会
フルカワ ヒロコ 古川 博子	子育て、教育など人を育て心をはぐくむ分野	川崎区PTA協議会
ハセガワ ユキコ 長谷川 幸子		川崎区民生委員児童委員協議会
ハラダ アユム 原田 歩	緑の保全、ごみの抑制など自然環境又は生活環境を向上させる	川崎区市民健康の森 海風の森をMAZUつくる会
イノクマ トシオ 猪熊 俊夫	産業の振興、都市拠点の形成などまちの活力を高める分野	かわさきタマネージメント機関運営協議会(かわさきTMO)
カナイワ イサオ 金岩 勇夫	文化又は観光の振興などまちの魅力を発信する分野	川崎区文化協会
ナカムラ ノリコ 中村 紀子		特定非営利活動法人 かわさき歴史ガイド協会
アイハラ アキラ 藍原 晃	地域住民組織活動、まちづくり活動など市民自治を推進する分野	川崎区連合町内会
イシワタ ヨソウエモン 石渡與惣右衛門		川崎区連合町内会
シマダ ジュンジ 島田 潤二		川崎区連合町内会
タナベ トミオ 田辺 富夫		川崎区まちづくりクラブ
ウオツ トシオキ 魚津 利興	その他、各区の地域特性に応じた課題に関する分野	企業市民 川崎商工会議所
ハク ヨンジャ 朴 栄子		多文化共生 川崎市ふれあい館 (社会福祉法人 青丘社)
アオキ エミコ 青木 恵美子	公募	
アライ ケイハチ 荒井 敬八	公募	
オガサワラ イサオ 小笠原 功	公募	
ホシカワ タカヨシ 星川 孝宜	公募	

(20名)

委員長

副
委員長

川崎区区民会議参与名簿

五十音順・敬称略

【市議会議員】

氏名	所属会派
イイツカ マサヨシ 飯塚 正良	民主党
イワサキ ヨシユキ 岩崎 善幸	公明党
コバヤシ キミコ 小林 貴美子	公明党
サカモト シゲル 坂本 茂	自由民主党
サノ ヨシアキ 佐野 仁昭	日本共産党
シマザキ ヨシオ 嶋崎 嘉夫	自由民主党
ニシ ジョウジ 西 譲治	民主党
ハマダ マサトシ 浜田 昌利	公明党
ハヤシ ヒロミ 林 浩美	自由民主党
ミヤハラ ハルオ 宮原 春夫	日本共産党

【県議会議員】

氏名	所属会派
スギヤマ ノブオ 杉山 信雄	自民党
タケダ イクサブロウ 武田 郁三郎	社会民主党

川崎区区民会議

第1期

川崎区区民会議

～ 区民会議の役割と
これまでの経過～

平成19年12月15日(土)
第1回川崎区区民会議集会

1

川崎区区民会議

区民会議の役割

1. 区民会議の制度
・区民会議はなぜ設置されたのか
2. 区民会議の活動
・区民会議は何をするのか
3. 川崎区区民会議の特徴
・川崎区区民会議はどんな会議なのか

2

川崎区区民会議

区民会議の制度

川崎市自治基本条例 (平成17年4月1日施行)
 ・**情報共有、参加、協働** [(自治運営の基本原則)第5条]
 ・区民で構成される会議を設け、参加と協働で**地域の課題解決**を目的として**調査審議** [(区民会議)第22条]

川崎市区民会議条例 (平成18年4月1日施行)
 ・**暮らしやすい地域社会の形成に資する** [(目的及び設置)第1条]

3

川崎区区民会議

区民会議の活動

地域の課題を把握

川崎区区民会議

調査・審議

課題

子育てしやすい環境の整備が必要

区の魅力を高めたい

地域活動の担い手が不足している

最近、地震が頻発しているので、地域防災が大切

4

川崎区区民会議

川崎区区民会議の特徴

川崎区区民会議

調査・審議

課題

⇒

実行計画

何を、いつまでに、誰が
実施するのかを明記

事業名	内容	3月	4月	5月	6月	7月	平成20年6月まで	取り組み団体など	
課題A	を×××× ×するために、 を	→					→	可能な限り継続	商店街 ××××の会 小学校
課題B	××××××を するために、 を	→				→	6月15日まで設置完了		クラブ 推進協議会 川崎区役所
課題C	を するために、 を××××する。	→			→	→	5月末まで作業完了		××連絡会議 小学校

実行計画イメージ

5

川崎区区民会議

これまでの経過

- 1 区のイメージアップ**
 - 第3回アメリカンフットボールワールドカップ2007川崎大会に向けて区民の力を結集しイメージアップに取り組む -
- 2 次世代を担う子どもの安全・安心を中心とした地域子育て支援**
- 3 地域コミュニティの充実**

6

川崎区区民会議

区のイメージアップの取り組み

まちを花で飾る 区 協

< たちばな通りと平和通り、川崎球場に草花を飾りました >

路上喫煙禁止、自転車放置禁止ステッカーの張り付け 協

< 川崎駅周辺の街路灯にステッカーを張り付けました >

オープンカフェ稲毛公園の開催 区

< 稲毛公園でイベントを開催しました >

放置自転車、看板の道路不法占用パトロールの実施 協

< 川崎駅周辺の放置自転車や道路不法占用の改善を指導しました >

川崎駅・川崎球場間の道路清掃の実施 協

< 川崎駅・川崎球場間の道路を集中的に清掃しました >

取り組み主体: 区 区民 協 行政と区民の協働

7

川崎区区民会議

まちを花で飾る(商店街編)

実施主体: 海風の森をMAZUつくる会、たちばな通り商店街、平和通り商店街

葉ケイトウを種から育てて
プランターに植えました



たちばな通りと平和通りにプランターを150
基飾りました





8

川崎区区民会議

まちを花で飾る(川崎球場編)

実施主体:川中島中学校区地域教育会議など

川崎球場入り口にサルビアを飾りました



川中島中学校美術部がメッセージボードを作りました



このほかにも、富士見中学校周辺では地域教育会議や町内会などが普段から花を飾っており、アムフトワールドカップの際も観客をおもてなしの心で迎えました

9

川崎区区民会議

路上喫煙禁止・自転車放置禁止 ステッカーの張り付け

実施主体:中央まちづくりクラブ、東海道川崎宿2023

川崎駅周辺の街路灯に張り付けました

路上喫煙禁止、自転車放置禁止ステッカーを作成しました




10

川崎区区民会議

オープンカフェ稲毛公園の開催

実施主体:2007アメリカンフットボールワールド
カップ大会協賛イベント実行委員会

7月7日(土)、8日(日)「オープンカフェ稲毛公園」を開催しました



ステージパフォーマンスなども実施しました



11

川崎区区民会議

放置自転車、 看板の道路不法占用パトロール

実施主体:各商店街組合の代表者、川崎区役所、
川崎警察署

川崎駅東口をパトロールしました



放置自転車や看板の道路不法占用などの改善を指導しました



12

川崎区区民会議

川崎駅・川崎球場間の道路清掃の実施

実施主体：町内会・自治会、各商店街、川崎水曜パトロールの会、川崎区役所

道路の隅々まで清掃しました

大量のゴミを撤去しました



13

川崎区区民会議

子どもの安全・安心の取り組み

地域見守り看板の設置 区 協

< 子どもの見守りを呼びかける看板を区内に掲出しました >

こども安全の日を設定 協

< 毎月1日と10日をこども安全の日を設定しました >

青色回転灯装着車パトロールの実施 協

< 青色回転灯を装着した車両で区内をパトロールしました >

取り組み主体： 区 区民 協 行政と区民の協働

14

川崎区区民会議

地域見守り看板の設置

実施主体：区こども総合支援ネットワーク会議、区安全・安心まちづくり推進協議会

地域見守り看板を作成しました

小学校や町内会館など、区内各所に掲出しました



15

川崎区区民会議

こども安全の日を設定

実施主体：区安全・安心まちづくり推進協議会

毎月1日と10日をこども安全の日を設定して登下校時間帯などに見守りをしています



16



青色回転灯装着車パトロールの実施

実施主体：区安全・安心まちづくり推進協議会

青色回転灯を装着した車両でパトロール



暮らしやすい地域づくり

区民会議の目的

課題解決の取り組み

暮らしやすい地域社会の形成

取り組みの継続を

区民の参加と協働で実現

多くの人の協力が必要

区民一人ひとりができる範囲で活動



平成19年度の活動

区民会議集会

↓ **皆様のご意見・ご提案を**

川崎区区民会議

審議テーマ

地域コミュニティの充実

・地域防災部会

・シニアパワー部会

調査
審議



第1回川崎区区民会議集会

ご清聴ありがとうございました。

日時：平成19年12月15日(土)

午後1時30分から開催

場所：田島支所会議室

主催：川崎区区民会議

川崎区区民会議 地域防災の課題解決に向けた取り組み(案)

区民会議での議論から

周知

「地域防災計画」や「自主防災組織の手引き」をもっと周知すべき。
若い人や外国人などを対象に周知すればパニックにならない。
防災用品を自然に目に入るところに展示するのが効果的である。

備え

自分たちだけでは無理なこともあるので、ボランティアの対応も考えておいた方がよい。
身の安全の確保が重要で、地震が起きても火を出さないよう徹底する必要がある。
あとで弁償することを前提に、自動販売機の飲料を災害時に利用できる協定を結べないか。

訓練

町内会ではある程度防災組織ができているので、あとは訓練次第である。
訓練をすると自信がつき、火災が起きても落ち着いて対応ができる。
運動会に防災訓練を織り交ぜて実施したら見に来た家族も参加できる。

担い手

町内会も高齢化しているため、体力がある中学生を活用するとよい。
最近、地域と関わらない人が増えてきているが、その人たちも一緒に取り組まないとだめ。
地域の活動の参加者はいつも同じ人ばかりというのが実情である。

自助・共助・公助

災害が起きると3日間くらいは応援が来ない前提で考えておかなければならない。
どこにどのような人がいるのか把握しておかなければならないが、個人情報問題もある。
自分で自分の身を守るのが最初で、その後にはほかの人を助けに行く形になる。

体制

町内会が高齢化しているため、ほかの区民の視点からも考えないと地域の防災はできない。
これからの地域防災は新しい枠組みづくりが必要。
学校と地域は連携していかないとうまくいかない。
大規模マンションの住民と既存の町内会、学校、幼稚園や保育園まで含めての連携が必要。
日頃からお祭りなどを通じて地域のコミュニケーションをとることが重要である。

具体的な取り組み

まずは防災意識の向上を

- (区民) ・自分の避難所を確認する
・職場や地域での防災訓練に積極的に参加する
- (行政) ・区地域防災計画を周知する
・外国人や若者への啓発を行う

備えあれば憂いなし 訓練すれば混乱せず

- (区民) ・地震時にとっさに身の安全を守ることや火の始末を習慣づける
・3日分の食料を確保する
- (協働) ・総合的な防災訓練を実施する

地域のみんなで力を合わせて生き延びる

- (区民) ・災害時に近所で助け合えるよう日頃のコミュニケーションを大切にする
- (協働) ・災害時要援護者への支援を行う

地域の実情に応じた防災体制をつくる

- (区民) ・地域内の各団体が連携する
- (協働) ・防災訓練をきっかけとして地域の連携を図る
- (行政) ・自主防災組織の設立を支援する
・町内会の活動をPRする

地域コミュニティの充実

周知

区地域防災計画や自主防災組織の手引きなどは素晴らしい内容だが、あまり広報されていない。区民の10分の1の人でも知ってもらえればよい。区地域防災計画を地域の人に知らしめていくこと、町内会だけではなく地域の各団体と連携して知らせていくことが大切である。町内会など地域に密着している人は防災意識が高いので、若い人や外国人などを対象に周知すればパニックにならないと思う。大手スーパーのように、防災用品を自然に目に入るところに展示するのが効果的である。

備え

災害備蓄倉庫は中学校区くらいの範囲で設置しているが、小学校区くらいの範囲で設置した方がよい。小学校区くらいの範囲にすると道路が寸断されてもたどり着ける。地震はもちろんだが、風水害に対しても備えておく必要がある。避難された人の小さな傷や簡単な応急手当などの処置は必要なので、医薬品も備蓄した方がよい。ボランティアの対応も考えておいた方がよい。自分たちだけでは無理なこともあるということも認識しておくべき。食べ物も大事だが、身の安全の確保が重要である。地震が起きても火を出さないようにすることを徹底する必要がある。あとで弁償することを前提に、自動販売機の飲料を災害時に利用できる協定を結べないか。

訓練

町内会ではある程度防災組織ができているので、マニュアルがあれば、あとは訓練次第である。訓練をしていないといざというときに実践できない。いろいろな訓練をすると自信がつき、身につくようになる。例えば、消火訓練をすると火災が起きたときに落ち着いて対応ができる。外国人の中には言葉がわからない人もいるので、実際に何か起きたときに戸惑うこともあると思う。普段からの訓練や教育が必要だ。小学校で運動会を開催するときに防災訓練を織り交ぜて実施したら、運動会を見に来た家族も参加できるのでよい。子どもは地域の小学校に通うのだから、小学校単位のイベントを考えたらどうか。

担い手

町内会の人々の年齢が高くなっていたり、昼間は地域に大人がいなかったりするため、体力がある中学生を活用するなど、幅広い見直しが必要である。主婦は昼間パートで働いていても地域にいる人が多いので、そういう人たちの力をもっと活用できればよい。最近、地域と関わりがない人が増えてきているが、その人たちも一緒に取り組まないと地域課題の解決につながらない。地域の課題を把握していても、誰がどのように取り組むのかが決まらなると解決に至らない。PTAの役員も成り手がいない状況であり、どうすれば協力が得られるのか模索しているところである。地域の活動の参加者はいつも同じ人ばかりというのが実情である。

自助・共助・公助

災害に対しては自分で自分の身を守るのが一番大切であり、余裕があればほかの人を助けるべき。
災害が起きると3日間くらいは応援が来ない前提で、自分の力で生き延びる方法を考えておかなければならない。
災害があったときのために、どこにどのような人がいるのか把握しておかなければならないが、個人情報の問題もある。
民生委員も町内会の全ての人を見られるわけではないので、隣近所が担うべきである。
自分で自分の身を守るのが最初で、その後にほかの人を助けに行く形になると思う。自助、共助、公助の順番でなければならない。
地域の防災力の向上と同時に、町内会への加入促進をして地域の力を高めていかないと、形だけの制度になってしまうおそれがある。

体制

町内会は高齢化しており、大規模マンションなどに子どもを持つ若い世代が増えているので、町内会だけではなく、ほかの区民の視点からも考えないと地域の防災はできない。
地域に新しくマンションができて、既存の町内会などの活動には新しいマンションの住民はなかなか参加できない。無理に参加させようとするれば地域が混乱するおそれがある。団塊の世代に町内会へ参加してもらおうといっても現状では難しいと思う。何か受け皿になるような組織をつくらなければならない。
既存の団体を壊してしまうと不都合もある。しかし、新しい人は既存の組織にいろいろな抵抗がある。これからの地域防災を考えるならば、今までの枠組みではなく、新しい枠組みづくりをしないとできない。
区内で大規模マンションの建設が増加しており、その住民に地域との関わりを持ってもらう1つの手段として防災訓練を実施することも考えられる。学校と地域は連携していかないとうまくいかないから、学校と町内会は一体になって取り組むべき。協議会のようなのをつくれば、いろいろなことが知らしめていけるのではないかと。
新しい大規模マンションの住民と既存の町内会の人たち、それから、学校、幼稚園や保育園まで含めて、それらの人たちの連携が地域防災の一番の課題だと思う。
日頃からお祭りなどを通じて地域のコミュニケーションをとることが重要である。
災害時だけ協力し合うのは難しい。町内会の活動をもっとPRすべきである。

臨海部

臨海部の工場群で大規模災害が発生した場合、このような大きな工業地帯では、一般の人は対応の仕様がなない。
地域で生活している住民は企業の安全管理が不安なので、特に川崎区の場合はよくチェックしなければならない。

川崎区区民会議 シニアの課題解決に向けた取り組み(案)

区民会議での議論から

人生いろいろ

定年した人たちを対象に、地域で活動するようお願いすることがよいのかよくわからない。
シニア世代全部を包括するのは難しい。
自分の健康、年金のことなどがあるので、まちのために何かするという事は優先順位が高くない。
地域活動に参加したいがどうすればよいかわからなかったり、二の足を踏んでいたりする人などに絞るべき。

アイデア勝負

どうすれば関心を持ってもらえるかを考える。
川崎区のシニア世代は元気ですごいということが表現できるとよい。
面白そうなものや楽しそうなものなど多彩なメニューが大事である。
楽器、絵画、パソコン、ダンス、カラオケなどの趣味で入ると入りやすい。
シニアは健康にも関心が高いので、ラジオ体操や東扇島マラソン大会も有効である。
継続するには、感謝されたり、お小遣いになったり、一杯やれたりすることも大切である。

受け皿づくりが必要

仕事一筋で来た人もいろいろなノウハウを持っているので、大きな財産である。
こういう受け皿ができたから参加して欲しいという呼びかけをしてみてもどうか。
ふるさと意識や縦と横のつながりをどのように広げていくかを考える必要がある。
町内会で役職を引き受けるとすぐに別の大きな役職も依頼されるので、なかなか地域に出ていく人がいない。
町内会・自治会だけではなく、いろいろな団体や個人が連携して地域コミュニティを充実する方向にきている。

シニアパワー

高齢者には若い世代に継承すべきものがたくさんある。シニア世代の持っている力を地域で発揮して欲しい。
高齢者が、生き生きライフを謳歌しているまちであって欲しい。そうすれば、恐らく町内会も変わる。
元気なシニアがたくさんいて楽しくやっていたら、参加したいと思う。楽しくなければだめである。

具体的な取り組み

多彩なメニューで地域と触れ合う
きっかけをつくる

それぞれのペースで無理なく参加して
もらう

- (区民)
 - ・お祭り、防犯パトロール、ゴルフ大会などへ勧誘する
- (協働)
 - ・ラジオ体操やマラソン大会などシニアが参加しやすいイベントを開催する
- (行政)
 - ・地域デビューを支援する施策を行う

参加する人も受け入れ側も
広いところで柔軟に

- (シニア)
 - ・郷に入っては郷に従え
 - ・まずは地域を知る
- (地域)
 - ・長い目で受け入れる
 - ・活動をよりオープンにする
- (行政)
 - ・郷土史講座など地域を知る機会を提供する

シニアの力が集まれば
地域の課題も解決

- (区民)
 - ・地域において能力活用を提供する
- (行政)
 - ・市民活動を支援する

地域コミュニティの充実

区民会議における委員の意見(シニア) 1/2

人生いろいろ

地域は「どこの人が定年する」などの情報を探している。ということは、地域をうまく運営していくためのパワーやノウハウ、人手が不足しているのである。しかし、そういう人は定年しても本当はそういうことと関係なく、俗な言葉で言えばぶらぶらすることを目指していたりする。そういう人たちを対象に、地域で活動するようお願いしたり、仕事を紹介したりすることがよいのかよくわからない。シニア世代は講座などシニアのための情報を本当に欲しがっているのか聞いてみたい。シニア世代全部を包括するのは難しい。シニアでも現役で働いている人はたくさんいる。先ほど意見があったように、女性は既に地域でネットワークをつくっていて暇で困る人はあまりいない。

60歳で定年したから急にすることがないという人は意外と少ないと思う。企業を定年になった人も8、9割は週に3日くらい仕事をしている。

65歳から上の世代は規則正しい質素な生活をしてきた人なので、元気でまちのためにいろいろ活動している。しかし、50～62歳くらいの方は自分の健康、年金のことなどがあるので、まちのために何かするということが優先順位が高くない。先ほど委員の意見でもあったが、65歳くらいからがシニアで、50～62歳くらいの方はやるべしとあると思う。

シニア世代にしてみれば、あまり行きたくないチームからスカウトされているようなものである。行政の立場からすれば、シニア世代にパワーが余っているから活用しようという考えがあるのだろうが、シニア世代が本当にそれ求めているかどうかはわからない。委員の意見でもあったが、地域活動に参加したいがどうすればよいかわからなかったり、二の足を踏んでいたりする人などに絞って、有効に地域で活用しようということだろう。

アイデア勝負

男性で今は地域参加していないが、何か参加したいというニーズがある人に対し、地域での取り組みを紹介したり、どういう分野の活動がいいかを指導したり、どこの団体がこういう人を求めているという情報を提供したり、あるいはリーダーになりたい人がいたらリーダー研修の受講を勧めたりする。そのように効率的な場を用意して、川崎区の中で10人でも100人でも参加してくれれば、スタートとしては大成功だと思っている。

中学校区の地域教育会議では比較的町内会に関係していない若手を中心になって活動を始めている。ところが、放っておいたため自然消滅的に活動が縮小してきている。何か再活性化するような対策を講じるのも一つの方法である。

民生委員、保護司などの成り手がいないが、民生委員、保護司だけで成り手を探しているからである。公募のように地域で呼びかければたくさん出てくる。団塊の世代はパソコンで生きてきたような人たちばかりなので、ホームページなどで広報した方が、紙媒体より伝達力がある。

町内会、文化団体、体育指導員など多くの団体で、新しい人が入ってこないために高齢化している。そういうところには新しい人は入りづらい。新しい人たちが自分たちで会をつくれば集まる。以前にあった成人学校のような市民館の行事などで新しいアイデアを出していかないと、人は集まらない。

方向性としてはシニア世代に押し付けるような方法ではなく、どうすれば関心を持ってもらえるかを考えていくのだと思う。新しいマンションが建設されている、単身世帯が多いなど区の特徴をとらえ、その人たちが地域にどうかかわってくれるのか。行政にはシニア世代を地域に呼び込むような取り組みを実施して欲しい。川崎区区民会議では独自の提案、助言、忠告などで、何かこちらで仕掛けをつくることができればよいと思う。例えば、自然発生的にシニア世代のパワーが集まり、何かをするように演出をしたり、あるいは発生したものを活性化させるために仕掛けたりするといったことである。

当たり前の提案ではない特色あることができるとよい。川崎区のシニア世代は元気ですごいということが表現できるとよい。

高齢者は自分が楽しいことしかしないと思う。これまで苦しいことを多くしてきたので、居心地がよかったり、人との出会いがあったり、仲間づくりも含めてワイワイ、ガヤガヤできるようないい環境が増えるとよい。

純然たる遊びではだめである。登校拒否の子どもを集めた学校をどこかの学校の空き教室を使って、団塊の世代の人たちに力になってもらい設置したらどうか。

市でも色々なシニア施策をやっているが市民に浸透していない。面白そうなものや楽しそうなものなど多彩なメニューが大事である。

楽器、絵画、パソコン、ダンス、カラオケなどの趣味で入ると入りやすいのではないかと。シニアは健康にも関心が高いので、ラジオ体操や東扇島マラソン大会も有効である。

例えば消防団はやりがいがあるので加わりやすい。継続するには、感謝されたり、ちょっとしたお小遣いになったり、一杯やれたりすることも大切である。

受け皿づくりが必要

男性は仕事一筋で来た人ほど定年で自分の存在感を失う人が結構いる。そういう人もいろいろなノウハウを持っているので、それを地域で生かせないだろうか。人としていろいろなものを身につけており、大きな財産だと思うので、そういう人を生かせる地域、そういう人が生き生きしているまちづくりができればよい。それには受け皿がもう少し必要なので、町内会で元気なシニア世代の受け皿をつくるようなことができないか。

機会があればボランティア活動や地域福祉活動に参加してみたいという人たちに対し、こういう受け皿ができたから参加して欲しいという呼びかけをすることが審議の中心になるのではないだろうか。そういう人が来るか、来ないかは別だが、そういう機会を設けて実施してみてもどうか。

これから地域で活動を始めたいという人が集まって、その人たちの活動希望を聞き、それならばあなたの特技を生かして活動する場所がこういうところにあるので、どこどこに登録したらどうかというようなことをしてもいい。

高齢者の特徴は人の役に立ちたいという地域貢献意欲がとても高いことだが、その場が探せない、見つからないのである。今まで家族、会社などのために一生懸命働いてきたが、ボランティア活動というのは意外としてこなかった。やはりそういう受け皿づくりが必要だ。

川崎区に住んでいる人たちのふるさと意識や縦と横のつながりをどのように広げていくかを考える必要がある。新しく住民になった人がどのように地域にかかわるかということでは、子どもを通じてだったり、清掃活動に参加したりといろいろあると思うが、具体的にはどうすればよいかとなると難しい。

町内会で何かの役職を引き受けると目立ってしまい、すぐに別の大きな役職も依頼されるので、なかなか男性で地域に出ていく人がいない。しかし、子供会の野球の応援や公園掃除など大勢で実施するものには出ていく。意気投合した仲間や目的を持ったサークルの方が動きやすい。

シニアに対して地域に参加するというライフスタイルもあると提案したとしても、町内会の仕事をして欲しいと言うと、抵抗を感じるシニアが多いと思う。だから、新しいタイプのコミュニティを考える必要がある。

町内会・自治会だけではなく、もっといろいろな団体や個人が連携して地域コミュニティを充実する方向にきているのではないか。

町内会の中には高齢化していて大変で、お祭りの支度なんてとてもできないというところもある。若い人たちに参加して欲しいという気持ちがありながら、それが表面に出てきていないのが現実である。行政としては地域の中核である町内会・自治会を活性化させることもコミュニティの新しい形成の一つだと思う。

シニアパワー

シニア世代は世の中を動かしてきた熱い世代だと思う。戦前生まれの人とは価値観も大分違うし、定年といっても、むしろ今までの高齢者のイメージを相当変える人たちではないかという期待感を持っている。町内会や地域教育会議など既存組織が必ずしも活性化していないという意見があったが、そういう人が新たに加わることで何か変え得るのではないか。

高齢者には若い世代に継承すべきものがたくさんある。ものづくりだけでなく、いろいろな遊びも含めて、核家族化で途絶えてしまったことを地域の人に教えるということもある。ぜひそういうシニア世代の持っている力を地域で発揮して欲しい。

昔、青年の主張というテレビ番組があったが、シニアの主張があってもいいと思う。そういうイベントを実施できるかは別として、人口の20%を超える一大勢力である高齢者が、生き生きライフを謳歌しているまちであって欲しいと思う。そうすれば、恐らく町内会も変わるだろうし、いろいろなところがだんだん変わると思う。

元気なシニアがたくさんいて楽しくやっていたら、参加したいと思う。楽しくなければだめである。